

建設技術展等の開催報告

「建設技術フェア2015in中部」 の開催結果報告

国土交通省 中部地方整備局 企画部 施工企画課

平成27年10月21日（水）・22日（木）の両日、愛知県名古屋市の吹上ホール（名古屋市中小企業振興会館）において、「建設技術フェア2015in中部」を開催しました（写真—1）。

「“守る”安全な暮らしを支える建設ICTやロボット技術」, 「“創る”未来を支える建設技術」を開催テーマに、207の新技术・新工法の展示をはじめ、ロボット技術をテーマとした講演会、学生との交流などのプログラムを設け、13,881人の方々に来場いただきました（写真—2）。

1. 建設技術フェアin中部とは

建設技術フェアin中部（以下「技術フェア」という）は、「豊かで安全な暮らしと環境の調和をめざして」をコンセプトとし、産・官・学の技術情報交流の場を提供し、技術開発や新技术の導入を図るとともに、建設分野を専攻している学生に技術開発の現状と今後の方向性を伝え、また、建設技術の魅力と社会資本整備の必要性を広く一般の方々へ紹介することを目的としています。1997年に開催以降、今回で19回目を迎えました。

2. 開催概要

今年の技術フェアでは、「ロボット技術」, 「防災・災害対策」, 「維持管理・長寿命化」, 「環境・



写真—1 技術フェア会場の吹上ホール



写真—2 会場内の様子

リサイクル」, 「設計・施工」の各分野から昨年度を上回る207技術／251社・団体の展示が行われました（表—1）。

また、技術展示以外にも大同大学工学部総合機械工学科ロボティクス専攻講師／博士（工学）の橋口宏衛氏によるドローンに関する「講演会」、大学・高専・高校等から学生が集まり先輩技術者

表―1 開催結果概要

開催期日		平成27年10月21日（水）～22日（木）	
会場		名古屋市中小企業振興会館吹上ホールおよび屋外	
出展技術／出展者数		207技術／251社・団体 （昨年比+26技術，+76社・団体）	
来場者数		13,881人（昨年比+2,927人）	
内訳	第1日目：21日（水）	天候：晴れ	6,868人
	第2日目：22日（木）	天候：晴れ	7,013人

との交流をはかる「学生交流ひろば」、学生や学校関係者に対して業界・行政団体が生の声をプレゼンする「学生のための建設技術フェア業界研究会」、災害対策車両・維持管理用車両の展示や地震体験ができる「体験・展示コーナー」、出展者による技術説明を行う「出展技術プレゼンテーション」等々、多くの企画が催され、会場は活気にあふれていました。

さらに、初日には、技術フェアのオフィシャルサポーターとして、名古屋のご当地アイドルグループの「dela」が来場し、イベントのお手伝いをさせていただきました。「dela」は、中部地方整備局が作成したDVD「建設業 夢を形にする世界」に出演しているグループです。

3. 各イベント、催しの様子

(1) 開会式

開会式は、技術フェア初日の9時30分より、日本建設業連合会中部支部長、名古屋大学総長、名



写真―3 開会式

古屋工業大学学長、名古屋市立大学学長を来賓にお迎えするとともに、150人を超える方々にご臨席を賜り、執り行われました（写真―3）。

茅野牧夫中部地方整備局長、河村たかし名古屋市長による主催者挨拶、井上和幸日本建設業連合会中部支部長による来賓挨拶をいただいた後、関係者においてテープカットを行い、2日間にわたる技術フェアがスタートしました（写真―4）。



写真―4 茅野局長の主催者挨拶

(2) 技術展示

技術フェア会場では、5分野207の技術による展示が行われ、実物や模型等による技術展示、技術者による実演展示等が行われるだけでなく、来場者による現場からの要望や改良点のアドバイス等、意見交換も積極的に行われ、当技術フェアの目的の一つである「技術交換の場」となっていました（写真―5）。

また、来場した学生らは授業では経験できない、最新の技術に実際に触れて体験し、技術者からの説明により理解を深めていました。



写真—5 技術展示会場

(3) 技術講演会

初日13時30分より、大同大学の橋口先生から、「様々な可能性を秘めるドローンとその課題」と題し、ご講演をいただきました。講演では、ドローンの種類や仕組みの紹介に始まり、ドローンの使用法の解説、現在どのようなビジネスで使用されているか、今後どのような利用が可能になるかなどを分かりやすく紹介していただきました（写真—6、7）。



写真—6 講演会場

(4) 主催企画・ロボット技術の実演

今年の技術フェアでは、「ロボット技術」を主催企画としており、小型無人飛行機（ドローン）の実演や、世界初のマシンコントロール油圧ショベルの実演を行い、建設の施工現場での利活用を広く情報発信しました（写真—8）。

(5) 学生交流ひろば

学生交流ひろばは、土木業界において近年深刻な課題となっている、学生の土木離れの原因として考えられる「どのような仕事をしているか分か



写真—7 講師：橋口宏衛氏
大同大学工学部総合機械工学科
ロボティクス専攻講師／博士（工学）



写真一八 主催企画・ロボット技術の実機実演



写真一九 学生交流ひろば

らない」,「授業で学んでいることが職場でどのように役立つのか理解できない」といった不安や疑問を,現場の第一線で活躍する先輩技術者との交流を通じて解消していくことを目的に企画されたものです。2日間を通して大勢の学生が訪れ,各建設業団体や行政機関の先輩方との交流を深めました(写真一九)。

(6) その他の企画・展示

技術フェアでは,その他にも内閣官房国土強靱化推進室から瀬戸企画官を講師に招いた「国土強靱化地域計画に関するセミナー」,会場内での「出展技術プレゼンテーション」,排水ポンプ車や除



写真一〇 国土強靱化セミナー

雪車を展示する「災害対策車両,維持管理車両の体験・展示コーナー」のほか,「継続出展者感謝状贈呈式」等の企画・展示も行われました(写真一〇~13)。



写真一11 出展技術プレゼンテーション



写真一12 災害対策車両等の体験・展示コーナー



写真一13 継続出展者感謝状贈呈式

4. おわりに

今回の技術フェアは天候にも恵まれ、13,881人の来場者を迎え、前年の来場者10,954人を大きく上回り、また、次世代の建設業を担う学生の来場者も1,500人を超えるなど、大盛況のうちに終わることができました。

来年度の技術フェアは、2016年10月20日(木)・21日(金)に開催を予定し、準備を進めてまいりますので、引き続き、多くの皆様に来場いただきますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、技術フェアの開催に当たりご尽力をいただきました、出展者・関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。